

令和元年 9月

坪内祥子 学位論文審査要旨

主査 吉岡伸一
副主査 花島律子
同 前垣義弘

主論文

Long-term prognosis of epilepsy in patients with cerebral palsy

(脳性麻痺患者におけるてんかんの長期予後)

(著者：坪内祥子、田邊文子、斎藤義朗、野間久史、前垣義弘)

令和元年 Developmental Medicine & Child Neurology 掲載予定

参考論文

1. Use of high b value diffusion-weighted magnetic resonance imaging in acute encephalopathy/encephalitis during childhood

(小児期の急性脳症/脳炎における高 b 値拡散強調磁気共鳴画像法の利用)

(著者：坪内祥子、板村真司、斎藤義朗、山下栄二郎、篠原祐樹、岡崎哲也、大野光洋、西村洋子、大栗聖由、前垣義弘)

平成30年 Brain & Development 40巻 116頁～125頁

2. 医療的ケアを要する障害児（者）の在宅医療調査

(著者：坪内祥子、玉崎章子、板倉文子、前垣義弘)

平成29年 日本小児科学会雑誌 121巻 1819頁～1826頁

審査結果の要旨

本研究は長期間経過観察した脳性麻痺のてんかん患者を対象に、脳発作抑制に影響する因子についてデータ解析を行ったものである。脳性麻痺のてんかん患者においては約半数で抗てんかん薬により発作が抑制され、発作抑制には発症から10年以上が必要で、脳性麻痺の中でも周産期脳障害では発作抑制率が高いことを示した。また、痙性四肢麻痺が発作抑制に関する予後不良因子であること、さらに、長期に脳波をフォローし改善を確認することで安全な断薬が可能となり、不要な薬の長期内服を避けることに役立つことを示した。本論文の内容は、脳性麻痺のてんかん患者においても発作が抑制され断薬も可能であることを示し、神経学において脳性麻痺患者のてんかん治療に資するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。